

第3学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年6月24日（火）第5校時

13:25～14:10

対 象 第3学年1組 31名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

会 場 3階 3年1組教室

令和7年度 研究主題 学びを深める児童の育成 ～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

1 単元名 お気に入りの本を読み、詩をつくって、本のみ力を友だちに伝えよう

教材名 『まいごのかぎ』（光村図書 3年上）

並行読書：4冊＋教師用1冊

『海をかつとばせ』『はるねこ』『ジローとぼく』『もりのかくれんぼう』＋『海底電車』

2 単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕（1）オ

- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕C（1）エ

- ・登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとすることができる。

〔学びに向かう力・人間性等〕

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（1）オ	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 C（1）エ	登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。

4 児童の実態

主人公が不思議な出来事に出会うファンタジー作品としては、2年生で「はるねこ」「アレクサンダとぜんまいねずみ」を読んだ経験がある。登場人物の気持ちや、場面の移り変わりによる気持ちの変化を、場面のつながりを意識しながら読みすすめた。また、言葉について調べたり、気になる叙述にサイドラインを引いたりして、一つ一つ丁寧に学習を行ってきた。

今年度、第3学年では詩を常置活動として取り組むこととしている。これは、様々な特性をもつ子供たちの割合が多いことや、外国籍の子供たちの割合が多いことなどにより、言葉を大切にしたり、言葉で表現したりする機会をつくりたかったためである。毎月、様々な学校行事や学習したことを基に詩をつくることで、自分の感じたことや思ったこと、感動したことなどを、楽しく伝える機会とした。子供たちは、詩を書く活動に少しずつ親しんでおり、詩をつくっている途中で、その意図を交流し合ったり、完成した作品を読み合ったりすることで、少しずつではあるが、言葉で自分の思いや感じたことを表現することに、楽しみや価値を見いだし始めている。

5 教材について

本教材は、登場人物である「りいこ」が、自らの行動によって体験する不思議な出来事を通して、迷いや失敗を乗り越えながら、最後には自分の行動を肯定的に捉え、成長していく姿が描かれた物語である。また、現実と非現実が交互に描かれている構造となっており、不思議な出来事が次々に起こるファンタジー作品でもある。物語中の「かぎ」の役割だけでなく、地の文からもファンタジーの世界が豊かに描かれ、読者が作品世界に引き込まれていく。

中学年C読むことエと関連すると、本教材は、登場人物「りいこ」の場面の移り変わりによる気持ちの変化を具体的に想像しやすい作品である。複数場面で描かれている、様々な不思議な出来事を通して、「りいこ」の不安な気持ちが変わる様子を捉えやすい。並行読書材の選定については、図書館司書と連携し、①登場人物の気持ちの変化が描かれている作品 ②物語の内容の難しさや量が中学年向きの作品 ③教科書教材と同じように不思議な世界の作品を基準に考えた。複数の並行読書材を準備することにより、子供たちが本の魅力を友達に伝えたいという意欲を高めることができるようにした。

6 研究主題との関連

(1) 目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

(2) 研究主題に迫るための手立て

①言語活動の工夫

ア 言語活動

不思議な世界が描かれている作品を読んで、本の魅力を詩や詩の説明文で伝える。

イ 言語活動の特徴

本単元では、複数のファンタジー作品を読んで、お気に入りの作品を選び、心に残ったところを基に「詩」をつくる活動を設定した。「詩」をつくる目的は、気に入った本の魅力を友達に伝えるためとし、詩を説明する文を書くことで、一人一人が想像したことを説明できるようにした。子供たちのつくる詩は、本単元でねらう 中学年C読むことエの登場人物の気持ちの変化や、登場人物の性格、情景を基にしていなくても予想される。そこで、教師作成の言語活動モデルでは、場面の移り変わりによる登場人物の気持ちの変化を具体的に想像したものとして示した。また、教科書教材を読んで児童がつくった詩の中から、本単元でねらう資質・能力が発揮されている詩を紹介することとした。これにより、多くの児童が並行読書材で詩をつくる際には、本単元でねらう資質・能力を発揮できるようにした。

ウ 言語活動モデル

【挿絵】
朝学習
等、国語の
時間外で絵
を描く

あわあわ旅行

きおくの海
ノイシュヴァンシュタインじょうに
ローマ水道
太陽の船

だれの海かな
コロセウムに
スフィンクス

つぎはひいおじいちゃんのきおくの海へ
出かけた
また会えるよね
だから今日こそ
学校なんて
こわくない

名前

【題名】
どんな詩なのかが分かりやすい言葉を使う。

【作者】
自分の名前を書く。ただし、登場人物になったつもりで、お気に入りの場面についての詩を書いてよい。

【詩の説明文】 吹き出し
① 不思議な出来事が起こる前の登場人物の気持ちを書く。
② どんな不思議な出来事が起こったのかを書く。
③ 不思議な出来事が起こったことで、登場人物の気持ちがどのように変化したのかを書く。

【連について】
モデルは二連で示しているが、一連でもよいこととする。ただし、お気に入りの場面について表現するようにする。

てっおは 学校に行けず、ひとりであるすばし
していたので、たいくつな気持ち だいたと思います。
そんな時に ゆう気を出してみると、人のきおくの
海に出会いました。
こうして、もともと出かけたい気持ちにな、て
学校にも 行けるようになったと思います。

②交流活動の特徴

ア 相手と目的を意識した交流活動の設定

本単元では、心に残った場面を選び「詩」に表すことで、本の魅力を伝える活動を設定した。子供たちは、どうしてその詩を書いたのかということを交流することで、場面の移り変わりによる登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景、物語の展開など、様々な本の魅力に気付くと考えた。また、本の魅力が友達とは違う視点であることに気付いたり、同じ場面を同じように魅力とを感じる面白さに気付いたりする等、多様に想像を広げて読むことができると考えた。

イ 交流の進め方をつかむためのモデル動画の作成

どうしてその詩をつくったのかという理由について、友達と交流することによって、自分で伝えたい本の魅力をより明確にすることができると考えた。今までの実践で、子供たちが思いや考えをもっているが、うまく交流できないということがあった。そのため、交流のモデル動画を作成し、交流の目的を明確にしたり、交流の方法を具体的に提示したりした。

- ・子供たちがどのような交流をすれば、当該単元で育てたい資質・能力を発揮した交流になるのか、指導事項と関連させて考えた。
- ・どのような手順で交流を進めるのか、持ち物や席の座り方、返答の仕方などを具体的に提示した。
- ・交流しているときの、全文シートの使い方、線の引き方など、複数の叙述を比較したり、複数の作品を参考にしたりして考えを明確にする手順を示した。

ウ 主体的に交流に参加するために

児童が交流する相手は、給食のグループや隣の席の子供というような機械的に決められた相手ではなく、一人一人が自ら目的をもって主体的に決めることとした。交流する場面では、次のような手だてで相手を自分で選べるようにした。教科書教材の場合は、全文が掲載されてあるものを黒板に掲示し、子供たち一人一人が、気になるところや紹介の根拠となる言葉や文に付箋を貼った。これにより、本文と付箋を頼りに自分が交流相手を探せるようにした。また、並行読書材の場合は、並行読書マトリクスを用いて、自分の考えをはっきりさせたかったり、自分の考えを試したかったりするなどの目的をもって、自分で相手を選んで主体的に交流ができるようにした。

7 単元の指導計画と評価計画（7時間扱い）

次	時	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準
第一次	1	学習の流れを確認しよう。 - 不思議な物語を読んで、心に残ったところを伝えるために「詩」に作ることを見通す。 『海底電車』を読み聞かせ、単元のゴールをイメージする。 - 並行読書をして、気に入った本を見付ける。	
	2	～まいごのかぎ～ 詩をつくるために、心に残ったところを決めよう。 『まいごのかぎ』を読み、心に残ったところを見付ける。 - 全文を掲示したものに自分の名前の付箋を貼る。 - 並行読書を選び、読み進めておく。	
	3	～まいごのかぎ～ 心に残ったところを交流し、詩をつくろう 「まいごのかぎ」を読み、心に残ったところを全文シートで交流する。 「まいごのかぎ」の詩をつくる。	【思考・技能・表現力】 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (全文シート、詩、詩の説明文) 【知識・技能】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(発言)
	4 (本時)	～まいごのかぎ～ つくった詩の理由を説明しよう。 - 交流するためのモデル動画を見て、交流の仕方を知る。 「まいごのかぎ」でつくった詩を説明する文章を書くために交流をする。 - 交流したことをもとに、詩を説明する文章を書く。	
第二次	5	～並行読書教材～ 詩をつくるために、心に残ったところを決めよう。 並行読書教材を読み、心に残ったところを見付け、サイドラインを引く。	【主体的に取り組む態度】 登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。 (発言、詩、詩の説明文)
	6	～並行読書教材～ 心に残ったところを交流し、詩をつくろう。 - 並行読書教材を読み、心に残ったところを交流する。 - 並行読書教材の詩をつくる。	
	7	～並行読書教材～ つくった詩の理由を説明しよう - 交流するためのモデル動画を見て、交流の仕方を知る。 - 並行読書教材でつくった詩に説明する文章を書くために交流をする。 - 交流したことをもとに、詩を説明する文章を書く。	
事後		～並行読書教材～ つくった詩を隣のクラスの友達と交流する。 つくった詩を隣のクラスの友達に伝える。 ※3年の交流は、7月 日の朝学習で交流する。	

8 本時（全7時間中の第4時間目）

（1）本時の目標

『まいごのかぎ』を読んでつくった詩を基に、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと一緒に付けて説明したり、登場人物の性格、情景について具体的に想像したりしたことを説明することができる。

（2）本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (10分)	1 単元のゴールを確認する。 2 前時までの学習を振り返る 3 本時のめあてを確認する。	- 詩のモデルと学習計画表を振り返り、単元のゴールを確認する。 - 全文シートやマトリックス表、交流活動で学習してきたことを確認する。 - 交流のモデル動画を見て、流れを確認する。	
	『まいごのかぎ』でつくった詩の説明をはっきりさせよう		
展開① (20分)	4 「どうしてそのように詩で表現をしたのか」を明らかにするために、友達と交流する。	- 全文掲示に貼ってある付箋を基に、相手を選んで交流するように促す。 「詩」と全文シートの叙述を基に話し合わせるようにする。 - 詩をつくった理由を説明している児童のうち、複数の場面を結び付けている児童を認めていく。 - 交流が停滞しているグループには、教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、場面の移り変わりと登場人物の気持ちの変化を結び付けて説明ができるように促す。	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している・・・C（1）エ 【A規準】 詩をつくった理由を、登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景を複数の場面と叙述と結び付けて、説明することができる。 【B規準】 詩をつくった理由を、登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景を複数の場面と結び付けて説明することができる。
展開② (10分)	5 交流したことをもとに、「詩」の理由を説明する文を書く。	- なかなか説明が書けない児童には、交流したときに話したことを書くことを伝える。 - 書き方に迷っている児童には、言語活動モデルを提示する。 - 机間指導をしながら、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を観点に詩の説明をしている児童を賞賛する。	【B基準に達しない児童への手だて】 教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、詩をつくった理由を、登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景を複数の場面と結び付けて説明する。
まとめ (5分)	・本時の学習をふり返る	・登場人物の気持ちの変化、登場人物の性格、情景を説明している児童を取り上げ、賞賛する。	

(3) 研究の視点

- ・交流したことを基に、『まいごのかぎ』の登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景を、詩を説明する文章に書くことができたか

(4) 板書計画

お気に入りの本を読み、詩をつくって、本のみ力を友だちに伝えよう 『まいごのかぎ』でつくった詩の説明をはっきりさせよう	○交流の目的…詩の説明をはっきりさせる	『まいごのかぎ』の全文を掲示する
--	----------------------------	-------------------------